

防災拠点全体

災害時コンセプト 『中部圏にも貢献する県内全域を対象とした後方支援拠点』

イメージ

資料1

※県が主体的に進める拠点整備のイメージを「見える化」した資料であり、事業提案については、この資料に拘束されず、よりよい提案を募集する。

【ライフライン確保】

■ 1週間の電力確保

- ・都市ガス・軽油の併用によるガスタービン方式の自家発電機

■ 2週間の飲料水・生活用水確保

- ・上水の耐震管を整備（小牧市引込み）
- ・飲料水兼用の耐震性貯水槽等を整備
- ・訓練時で使用する水を地下タンクで貯水し再使用。

■ 通信の確保

- ・次世代高度情報通信
- ・公衆無線LAN

車両動線

- ・各部隊、物資搬送車両等の動きやすさを考慮、車両混線の解消

- 物資車両動線
- 部隊車両動線



豊山町エリア
(地域住民の避難所として機能)

SCU (教育棟)

- ・広域搬送拠点臨時医療施設(SCU)として早期に体制確立

拠点本部機能 (管理・教育棟)

- ・本拠点の各災害対応業務を統括
- ・「拠点指揮運用本部」としてオペレーションルームを設置
- ・各防災関係機関の活動スペースを確保
- ・免振構造とし、県災害対策本部の代替機能を確保

自家給油施設

- ・備蓄容量20,000L
- ・救助車両等へ給油

災害用空港ゲート

支援物資エリア
約4.7ha

支援部隊エリア
約8.7ha

自衛隊
約4.3ha

SCU
(教育棟)

消防
約2.9ha

警察
約1.0ha

TEC-FORCE
約0.5ha

拠点本部
(管理・教育棟)

宿泊棟

自衛隊ベースキャンプ

- ・要員：約1,000人、車両：約200台
- ・宿営用天幕、指揮所、給油施設



警察ベースキャンプ

- ・要員：約2,000人
- ・車両：約200台
- ・装備資機材等保管庫 700㎡

消防ベースキャンプ

- ・要員：約1,600人
- ・車両：約400台
- ・市と連携した知識・技術習得、部隊連携による消防力、災害対応力の強化

TEC-FORCEベースキャンプ

- ・要員：約230人、車両：約90台

活動要員宿泊室 (宿泊棟)

- ・拠点活動要員（県本部機能、物流拠点、DMAT本部の各要員340人）の宿泊室確保
- ・廊下等を活用、更なる要員受入れ可能
- ・他県からの応援要員の受入（今後検討）



防災公園エリア

平常時コンセプト 『防災人材育成の聖地・地域に愛される防災公園』

イメージ

※県が主体的に進める拠点整備のイメージを「見える化」した資料であり、事業提案については、この資料に拘束されず、よりよい提案を募集する。

運用方針：防災啓発、防災ビジネスの拠点として、イベント時に消防学校と一体的に運営

人工芝広場

◆健康づくり・癒し

- ・アウトドア
- ・フィットネス
- ・ペタンク、モルック



◆にぎわい

- ・防災イベント
- ・屋外イベント
- ・集客性のある大型イベント



屋内運動施設

◆スポーツ

- ・インドアテニスコート等室内公式戦が可能な施設



- ・フットサル・ボルダリング

◆防災ビジネス

- ・防災企業展・防災スタートアップ
- ・産業振興、新産業創出の場を各企業に提供

舗装広場

- ・テニス
- ・バスケット



多目的広場①②

- ・サッカー
- ・野球



芝生広場

- ・野球やサッカーのアップフィールド
- ・ファミリー層のレクリエーション

神明公園

◆イベント

- ・防災サバイバルキャンプ（防災イベント）



- ・デイキャンプ場
- ・県内小中学生の課外学習、防災学習の場としてイベントを開催

◆プレイロット

- ・現況の機能を代替
- ・地元から愛される現在の現神明公園の機能をアップデート（プレイロット、健康器具、駐車場など）



教育棟

- ・防災・減災の普及、啓発及び人材育成を担う施設
- ・県職員が常駐し、防災啓発、防災ビジネスの拠点として運営
- ・防災フェスタ、県総合防災訓練をはじめ、県民参加型の防災各イベントを定期的実施
- ・小中学生などを対象とした防災普及啓発や近隣大型施設と連携した合同イベントなどを実施。
- ・進化し持続する防災協働社会実現に向けた県の防災の聖地として運用